

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 9 月 12 日現在

機関番号：32662

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00217

研究課題名(和文)異なる文化圏のシューベルト歌曲の受容の問題点を分析し現代において<読み直す>

研究課題名(英文) Analyzing the problems of reception of Schubert's songs in different cultural areas and rereading them in modern times

研究代表者

梅津 時比古 (UMEZU, Tokihiko)

桐朋学園大学・音楽学部・特任教授

研究者番号：80449800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はシューベルトの歌曲をテキストに、隠れた象徴の読み解きや、日常における異文化間の誤読を追求する比較文化論により、ドイツ歌曲の日本での受容が生み出す問題点を明らかにし、同時にドイツ語文化圏における伝統的理解にも逆照射し、そのもつ現代における限界を明らかにした。成果として新解釈の《水車屋の美しい娘》研究書の刊行(2022年)、シューベルトとニーチェの関連を紐解いたDer sterbende Lindenbaumのドイツでの刊行(2023年)、ドイツから二人の音楽家を招いた《冬の旅》コンサート(同)、日独の哲学者、音楽家による「紙上シンポジウム」の両国語による刊行(2024年)があげられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義及び社会的意義としては、シューベルトの歌曲集(《冬の旅》や《水車屋の美しい娘》)におけるドイツ語文化圏における伝統的理解に対し、間違いを指摘すると共に、全く新しい解釈(読み直し)を提示したことにある。それによって、ドイツでも「Ur Winterreise(原 冬の旅)の研究及び新解釈を引き起こした。同時にそれは、日本のシューベルト研究への高い評価をドイツにおいて生んだ。付随的には、日本において長年、用いられてきた定訳としての《美しき(い)水車小屋の娘》を、背景の社会的な誤解なく意味が伝わる《水車屋の美しい娘》に直して、一部ながらプログラムや曲目解説などに定着させたこともあげられる。

研究成果の概要(英文)：Based on Schubert's songs, this research deciphers hidden symbols, pursues daily misreadings between different cultures, and uncovers problems arising from the reception of German classical songs(Lied) in Japan. He also clarified the contemporary limitations of comparative cultural theory in terms of cultural understanding. The results include the publication of a new interpretation of "Die schone Mullerin(The fair maid of the mill)" (2022), the publication in Germany of Der sterbende Lindenbaum(The dead linden tree), which unravels the relationship between Schubert and Nietzsche (2023), and the invitation of two musicians from Germany. These include the "Winterreise(Winter journey)" concert (same) and the publication in both languages of the "Symposium on paper" by Japanese and German philosophers and musicians (2024).

研究分野：西洋音楽史 比較文化論

キーワード：比較文化 異文化圏 裏面史 差別 読み直し 原 冬の旅 水車屋の美しい娘 死せる菩提樹

1. 研究開始当初の背景

ドイツ歌曲の日本における受容には、多くの誤解が介在していたと言える。それは歌詞の翻訳による直接的な相違を理由とするだけでなく、背景としての異なる文化的なコンテクストが影響している要素が大きい。この受容の問題は歌曲だけではなく、狭く限定したとしても、クラシック音楽全体に共通する地平を持つことになる。もちろん、このような問題意識が従来、まったく指摘されていなかった訳ではない。

日本のドイツ歌曲受容におけるコンテクストの読み違いを研究するなかで、ドイツ文化内でのドイツ歌曲のコンテクストの読み込みにおいても、同種の読み違いが存在し、それが陥穽となっている構造が見出し得る状況であった。その一例を示すと、シューベルトの歌曲集《冬の旅》の中で広く人口に膾炙し、日本では学校の教材としても使われている一曲《菩提樹》は、一人の青年をめぐる単純な失恋の歌として受容されていたが(ドイツにおいても)、それは19世紀初頭のドイツ語文化圏に生きる主人公の苦悩に満ちた実存的な状景を表現するものとして作曲されており、それを紐解くことによって、《菩提樹》を現代の問題として受け取れるのである。《菩提樹》を疎外の概念として受け取る状況は、研究開始時には極めて異例であった。

2. 研究の目的

ドイツ歌曲全体の本質的な理解に寄与するためには、異なる文化における誤読の要素を、問いとして立てることによって、その陥穽を外す必要があったのである。それによってドイツ歌曲(とりわけシューベルトの世界)に、従来には見られなかった豊かな新たな水脈を発見し得るのではないかと、この視点が浮上した。

それはドイツとは異なる文化の日本でのドイツ歌曲受容に起こる齟齬だけを是正しようというものではない。ドイツ文化内におけるドイツ歌曲の受容に関して、慣習的なものなどさまざまな解釈の実態を見出し、そこに日本での受容と同じように、本質から外れたものがあれば、指摘・是正することによって、ドイツ(ひいては世界)全体でのドイツ歌曲(代表例としてシューベルト)の受容と理解に本質的に寄与しようとするところにある。

3. 研究の方法

第1年度

シューベルトの歌曲集《冬の旅》を対象にして研究を遂行した。まずは当該作品の我が国における従来の解釈の歴史を把握すると共に、独自の新たな解釈の範囲を確定することに努めた。研究方法は以下の通りである。

研究代表者は作品の音楽的要素ならびに詩としての要素の双方にわたって綿密な分析を行う。研究協力者として想定している八巻和彦早稲田大学名誉教授(哲学)とProf. Dr. Harald Schwaetzer(Kueser Akademie 神学)は、歌詞の詩としての要素のもつ文化的コンテクストを前提にしつつ、できるかぎり多様で深い含意可能性を探求する。研究代表者と研究協力者等は二週間に一度、オンラインで桐朋学園大学仙川キャンパス上に集まり個別研究の成果について、意見交換し、課題を確認した。この過程で生じた疑問や新たな課題について、適宜、ドイツ在住のピアニスト、Erika Herzog、バリトン歌手でモーゼル音楽祭監督のTobias ScharfenbergerおよびProf. SchwaetzerらとEmail、ZOOM等を介して協議した。

第2年度

歌曲集《水車屋の美しい娘》《冬の旅》を対象にして、上記の方法論による研究を遂行した。とりわけ《水車屋の美しい娘》に関して、研究代表者が新しい視点を提示し、それについて、上記の Erika Herzog、Tobias Scharfenberger および Prof. Schwaetzer らと Email、ZOOM 等を介して協議した。

第3年度

最終年度にあたる 2023 年度においては、本研究のまとめとしての企画をも行った。本研究における、《冬の旅》におけるドイツ語文化圏における伝統的理解への逆照射を非常に高く評価した Prof.Schwaetzer は、本研究における「菩提樹」に絞った部分のドイツ語訳論文を広くドイツ学会に知らしめるべく、ドイツにおける「哲学叢書」で本にするため、本研究代表者・梅津時比古とメール等において頻繁に討論を交わし、2023 年 5 月に *Der sterbende Lindenbaum* としてドイツ内で刊行され、企図は実現した。この概念と視点は本研究の一環として、23 年 9 月に、上記の Prof.Schwaetzer、Tobias Scharfenberger、Erika Herzog の 3 人が来日し、日本側から八巻和彦早稲田大学名誉教授、大島幾雄桐朋学園大学特命教授、星野明子桐朋学園大学特任教授、研究代表者・梅津らが加わって、シューベルトの歌曲集《冬の旅》に関するコンサートやマスターコースとシンポジウムを開き、更に研究を深める予定であった。しかし Prof.Schwaetzer が急病で来日不可となり、シンポジウムは中止。Scharfenberger らのコンサートやマスターコース、Herzog を中心にした研究会を開き、代わりに 23 年度末までに、Schwaetzer 教授の基調論文、八巻、大島、星野各教授と研究代表者・梅津による質疑応答を文章にまとめ、「紙上シンポジウム」として小冊子を作った。

4. 研究成果

「紙上シンポジウム」の小冊子はシンポジウムの記録以上に充実したものとなり、研究成果を高めることにつながった。また桐朋学園宗次ホールで開催された《冬の旅》コンサートは無料ながら、学生、教員以外にも解放し、Scharfenberger (バリトン) と古野七央佳・桐朋学園大学嘱託演奏員 (ピアノ) が出演、研究を反映した新しい解釈によって満員の聴衆に大きな感銘を与えた。その新しい解釈 (例えばドイツでも忘れられた風見鶏の意味) や、日常における異文化間の誤読を追求する比較文化論において詩と楽曲の合体である歌曲が社会問題を剔抉するツールとして存在してきたこと、などは「紙上シンポジウム」にも十分に反映することができた。最終年度におけるドイツでの *Der sterbende Lindenbaum* の刊行、宗次ホールでのコンサート、マスタークラス、紙上シンポジウムは、本研究課題を研究内部にとどめず、ドイツにおける研究者および一般読者、日本における本研究関係者以外の外部にも成果を広げ、共有することができる本研究のまとめとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Tokihiko Umezu	4. 発行年 2023年
2. 出版社 S.Roderer = Verlag, Regensburg (ドイツ)	5. 総ページ数 110
3. 書名 Der sterbende Lindenbaum	

1. 著者名 梅津 時比古	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 344
3. 書名 《水車屋の美しい娘》シューベルトとミュラーと浄化の調べ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ドイツのモーゼル音楽祭から、バリトン歌手のTobias SchrfenbeピアニストのErika Herzokの二人を招聘した トリーア大学の"Project to study the international influnce of lyric poetry チームの Prof. Dr. Harald Schwaetzer (Kueser Akademie) とライン等で協力研究を行った。 また、Prof.Schwaetzer、八巻和彦早稲田大学名誉教授、大島幾雄桐朋学園大学特命教授、星野明子桐朋学園大学特任教授、研究代表者・梅津らにより、シューベルトの歌曲集《冬の旅》に関する「紙上シンポジウム」をドイツ語、日本語併記で刊行した。</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	八巻 和彦 (Yamaki Kazuhiko) (10108003)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	シュヴェッツァー ハラルド (Schwaetzer Harald)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	Trier University (Germany)			